

# 平成15年度の経営方針について

15年5月26日

## 三井住友フィナンシャルグループ



本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い、予想対比変化し得ることにご留意ください。

# 15年度経営方針



今後2年間で、以下3点を実現。

- ・バランスシートのクリーンアップ
- ・収益性の高いビジネスモデルの確立
- ・ボトムライン収益の確保・拡大

不良債権比率半減  
保有株式 更に圧縮  
業務純益 1兆円体制確立  
15年度 : 1,000億円 以降大幅に拡大

三井住友銀行

不良債権

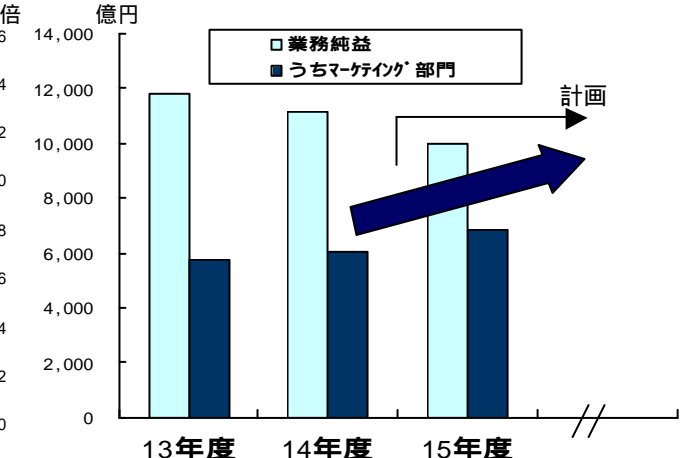
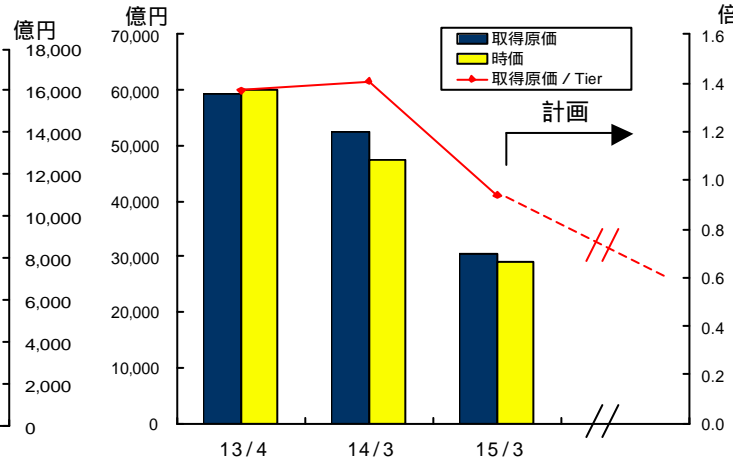
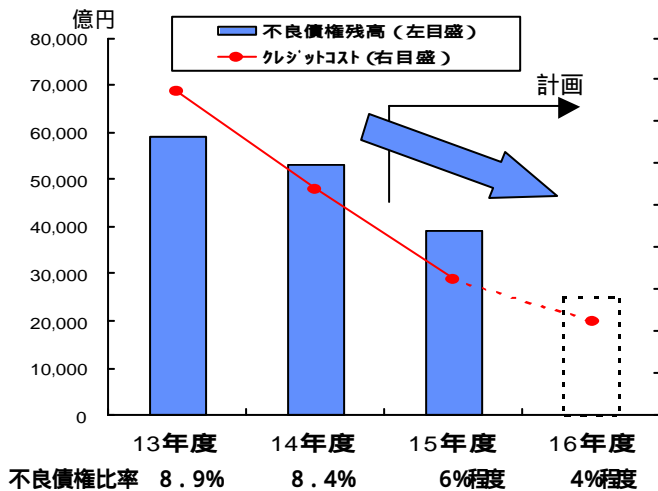
今後2年間(15-16年度)で  
不良債権比率を半減  
クレジットコストを抑制

保有株式

保有株式を更に圧縮し  
株価変動リスクを削減

業務純益

業務純益 1兆円体制確立  
このために、マーケティング  
部門の業務純益を、今後  
2年間で大幅に拡大



(注1) 保有株式は、「その他有価証券」の上場・店頭株式 (SMBC単体)

(注2) Tier は、13/4 (合併処理後・概数) 及14/3はSMBC連結、15/3はSMFG連結

# SMBCアセットクオリティ改善 不良債権残高の大幅削減



## 不良債権残高

### 15年度計画

金融再生法開示債権： 3兆9,000億円  
不良債権比率： 6%程度

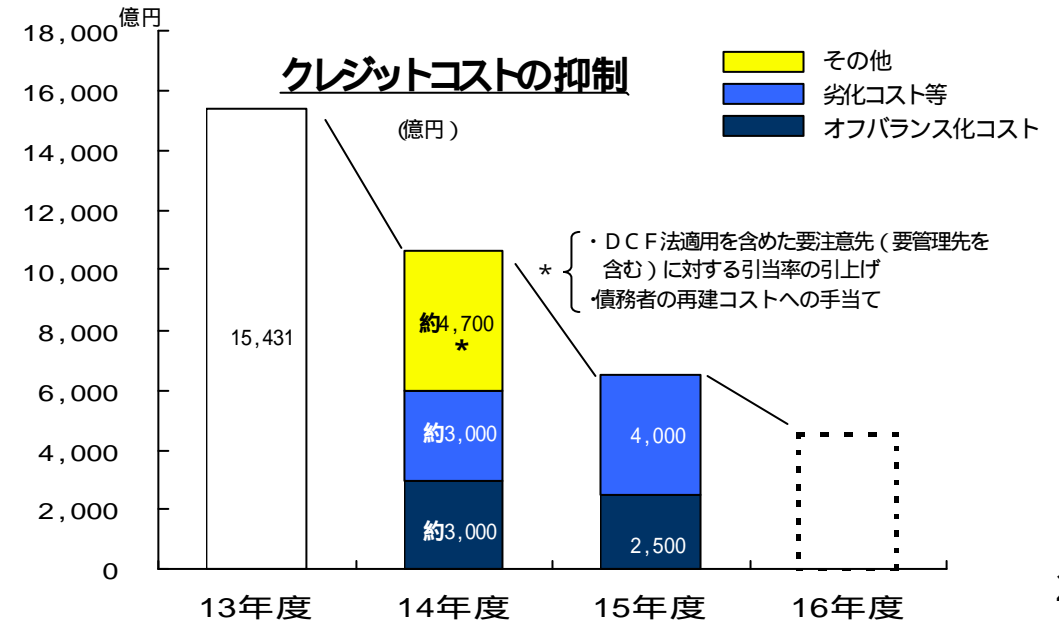
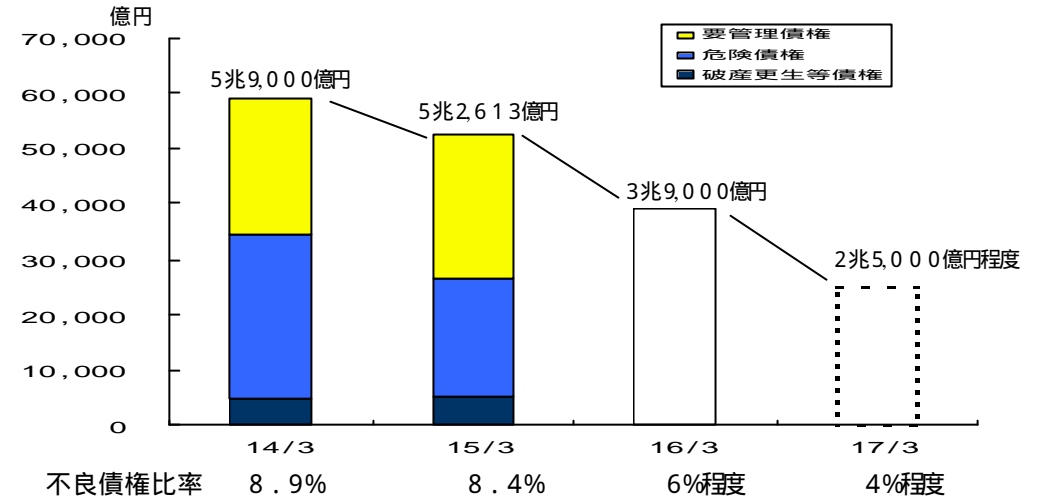
### 16年度計画

金融再生法開示債権： 2兆5,000億円程度  
不良債権比率： 4%程度

## クレジットコスト

15年度予想 6,500億円

## 不良債権残高の削減（金融再生法開示債権）



## 収益増強に向けた基本アプローチ

**粗利益**：取るべきリスクの明確化と収益性の高いビジネスモデルの確立  
**経費**：ローコスト・オペレーションの徹底

### 法人取引

#### 貸出ビジネスを中心としたビジネスモデルの変革

- 「質を伴ったボリューム増強による業務改革の進展」  
「審査改革」 「リスクテイク商品の拡充」
- 市場型間接金融、投資銀行業務の強化

### 個人取引

#### 新たなビジネスモデルの確立と 競争優位にあるビジネスでの攻勢強化

- コンサルティング事業（投信・投資型年金販売）
- ローン事業

### ローコスト・オペレーション

#### 更なる合理化を通じた経費削減の推進

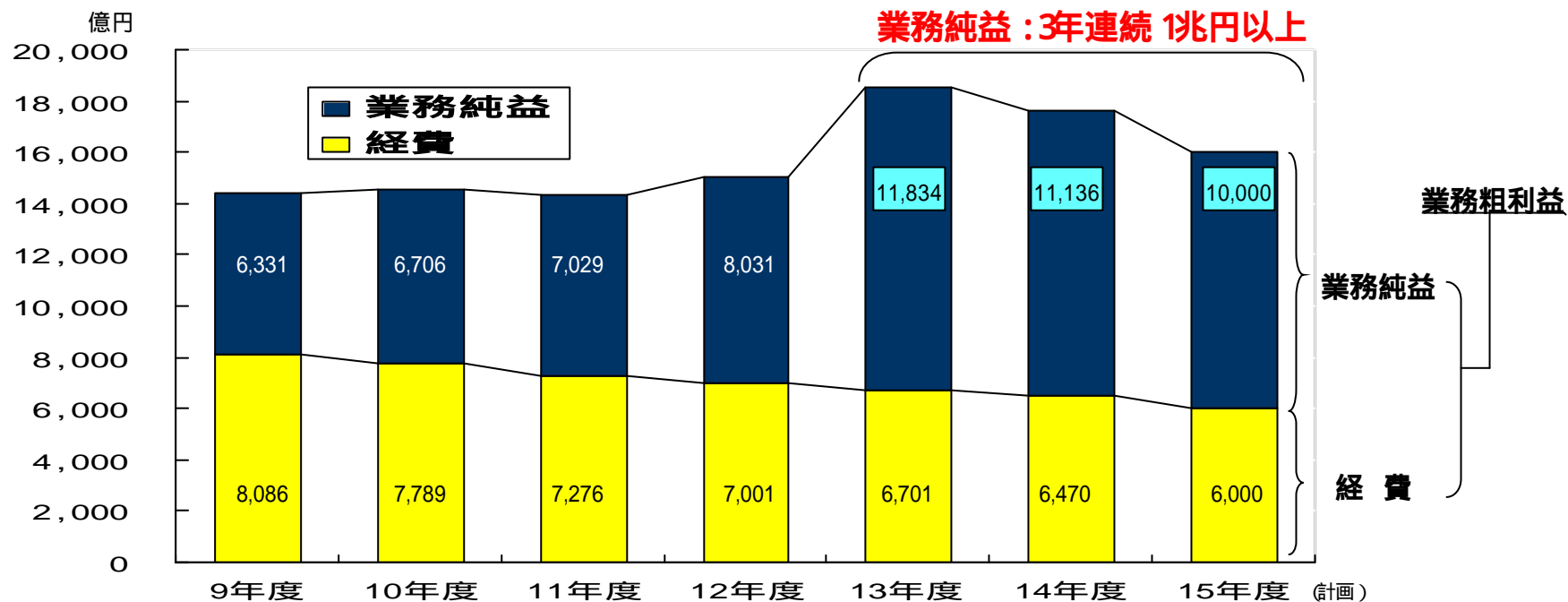
- 年間経費 6,000億円体制の 1年前倒し達成

# S M B C 収益力増強 業務純益 1兆円体制の確立



## 業務純益 経費の推移

(注)14年実績、15年計画は新S M B Cベース



	億円		
	13年度	14年度	15年度 (計画)
非金利収益*	2,710	3,516	3,600
マーケティング部門粗利益に占める比率	24%	31%	30%台

\* 役員取引等利益 + デリバティブ  
販売関連収益等

### 経費率\*\*

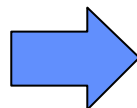
年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度 (計画)
経費率	56.1%	53.7%	50.7%	46.6%	36.2%	36.7%	37.5%

\*\* 経費 / 業務粗利益

# S M B C 収益力増強 更なる合理化の推進



## 14年度：経費削減が順調に進捗



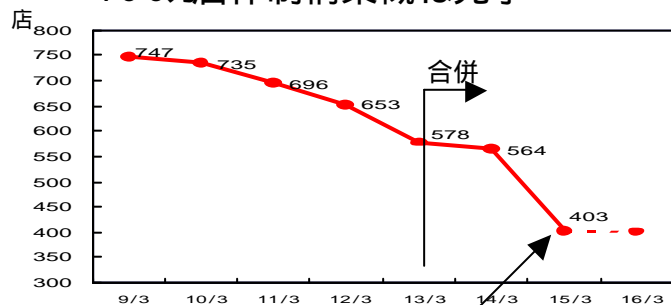
## 15年度：一段の合理化を通じた経費の追加削減

\* 下記は旧わかしお銀行分 (店舗：34店、従業員：623人、経費8.1億円)を除くベース

\* 下記は14年度実績および以降の計画は新SMBCベース

### 国内店舗数： システム統合完了 店舗の大幅削減

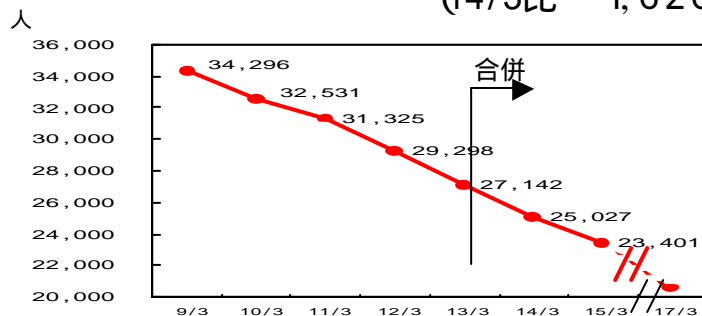
\* 400カ店体制構築概ね完了



共同店舗 (2カ店) 勘案後401カ店

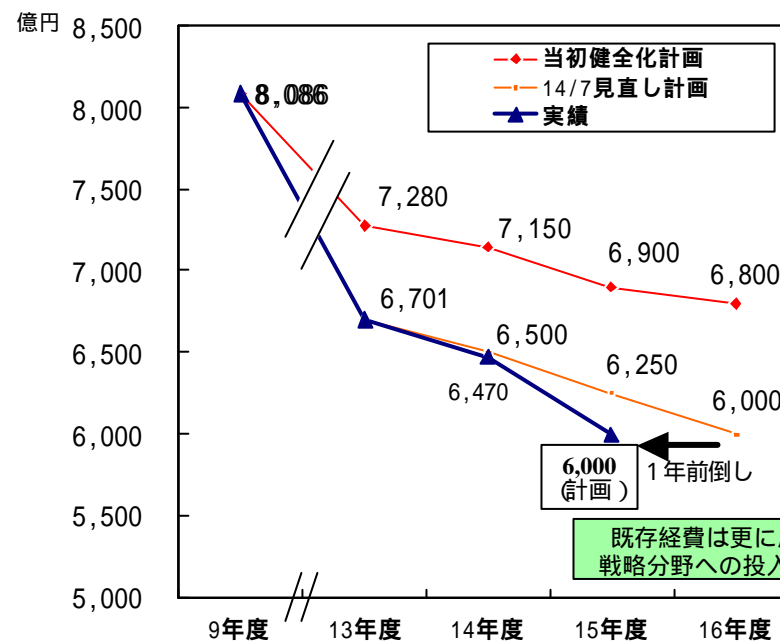
### 従業員数：計画通り削減が進捗

(14/3比 1,626人)



14年度経費削減実績： 312億円

### 年間経費 6,000億円体制の1年前倒し達成



既存経費は更に圧縮  
戦略分野への投入拡大

### < 主要施策 >

- ・人件費の圧縮
- ・情報システム部門の新体制移行に伴う効率化推進
- ・店舗運営・事務運営の効率化
- ・資材調達の見直し

15年度経費削減計画： 470億円